

語り劇

零に立つ

zero

激動の一世紀を生きた中川イセの物語



北海道網走開拓の母 中川イセ氏 プロフィール

明治34年8月26日生まれ。

東村山郡千布村上荻野戸（現在、天童市）の今野安蔵、サダの三女として生まれた。イセが2歳の時に母サダが他界し、イセは山寺村荒谷（現在、天童市荒谷）の佐藤栄七宅に里子に出された。

イセは小学校時代を佐藤家で過ごし、尋常科を修了後は、生家に戻され家業の手伝いをした。しかし、継母との折り合いが合わず生家を出た。その後は、山形、米沢、東京と転々と職を変えながら苛酷な日々を過ごした。17歳の時、娘「愛子」を出産した。

大正8年、愛子を里子に出し、その養育費をつくるために北海道に渡り、遊廓に入った。2年後中川卓治と結婚したが、中川家の反対があつて、イセは夫、夫の前妻の子と3人で樺太へ渡った。樺太では木材会社で熱心に勤めた。まじめに働く二人を知り中川家は勘当を解いた。その後、網走に戻り実家の牧場で働いた。

昭和22年に戦後初の統一地方選挙が実施され、夫の勧めを受け網走市議会議員選挙に立候補し、初の女性議員となった。それから7期28年間議員として活躍し、この間、イセは数多くの功績を残した。特に、水道の敷設は大きな事業となった。当時、網走市内の井戸水はアンモニアが強く飲料水としては適しないものであったが、幾多の困難を乗り越え上水道の敷設に奔走し、ようやく実現させた。

議員の傍ら家庭裁判所家事調停委員、網走婦人会長、人権擁護委員、母子相談員、社会教育委員、防犯協会理事、自民党道連婦人部長、福祉協会理事などで活躍した。

イセ氏が90歳になった平成4年、網走市議会は名誉市民の称号を与えた。

社会福祉法人網走愛育会理事長、学校法人網走学園理事、（財）網走監獄保存財団名誉理事長などとして100歳を超えても活躍、平成19年1月1日、105歳の生涯を閉じた。

出演

yumiko 夢実子

本名：今田由美子



子どものころから、夢は「女優」。
高校卒業後、地方のプロ劇団、東京の著名俳優の付き人などをする傍ら、俳優・声優の活動を開始。
「地方でも芝居で食っていく」をモットーに、平成10年帰郷。
現在は、舞台・映画・ドラマ・ラジオへの出演、ナレーション・講演・朗読、声と言葉の指導、コミュニケーション力や表現力をゆたかに育てる企業研修などで活躍する。
東北文教大学短期大学部非常勤講師。

<主な活動歴>

- ・映画「おしん」（平成25年全国上映）出演、方言指導
- ・映画「空人（くうじん）」（平成27年公開）
- ・NHKラジオ第一放送「マイあさラジオ『マイあさだより』」山形リポーター
- ・ラジオドラマ『オリオン星の歌〜月山に生きた志田周子』（日本民間放送連盟コンクール北海道・東北ブロック 優秀賞）

脚本

かめおかゆみこ

本名：甕岡裕美子



中学時代より演劇活動を開始。
大学時代より2年間、故・竹内敏晴氏（演出家）主宰の「からだとことばの教室」に通い、「からだ・ことば・表現」への関心を深める。
1995年～2007年、中学校演劇部の外部指導員を担当。
2004年より「かめわざワークショップ」を全国展開。
ふじたあさや氏に師事し、脚本研究会「落」を主宰。
子どもや地域のための新しい脚本づくりに取り組む。
著書に『演劇やろうよ！』『演劇やろうよ！指導者篇』（ともに青弓社）。『楽しい子どもミュージカル』（汐文社）『宮沢賢治童話劇場』（国土社）など、編著書多数。
脚本「月が見ていた話」で晩成書房戯曲賞受賞。

<主な活動歴>

- ・日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」
- 「視点を変える」をテーマに、2003年11月1日創刊。
以後、一日の欠号もなく、2015年11月1日には12周年を迎える。

技術制作スタッフ

- 演出 ■ かめおかゆみこ・今田由美子 ■演出協力 ■ 佐藤正宏（ワハハ本舗） ■舞台監督 ■ 高橋克也
- 音響 ■ 緒方晴英 ■照明プラン ■ 松崎太郎 ■映像 ■ アキラ ■チラシデザイン ■ エルハインド
- 企画・制作 ■ 菊地里香・天輝マキ・レイコ・オフィス夢実子
- プロジェクト「零（zero）に立つ」 天童公演代表 松村昌子